

導入事例  
らくらく  
ボード地域教材をフル活用!  
参加型授業で学びを「自分事」に

神奈川県三浦半島に位置する初声地区、のどかな田園風景に囲まれた三浦市立初声小学校で、「らくらくボード」を活用した授業が始まっています。同校で4年生から6年生までの理科の授業を担当する辻功先生が、電子黒板で子どもたちの興味や好奇心をどのように引き出しているのか、詳しくお話を伺いました。さらに同校の八巻貞司校長、三浦市教育委員会学校教育課の荒井俊彦指導主事にも同席いただき、電子黒板とこれからの学びについてのビジョンなど幅広くお伺いしました。



導入商品

らくらくボード  
IWB-651EB

※ディスプレイは別売りです。

## 鮮明な大画面には、惹きつける力がある

ご自身で撮影された月の写真など、授業ではビジュアルを多用されていましたね。

**辻先生:**子どもたちの興味を喚起するために、導入部分で写真を見せるということはよく行います。今回の授業は月の動きを学ぶというテーマでしたが、私がデジタルカメラで撮影した画像を使いました。理科というのは現物を対象にすることの多い教科で、しっかり観察することが大切です。そのため電子黒板の画面に大きな画像を表示し、様々なものを子どもたちに見せていますが、手ごたえは十分感じています。

大きな画面で、鮮明な画像を見せてあげることが意欲につながるのですね。

**辻先生:**児童の書いた観察カードなども、実験台の上に設置したデジタルカメラで撮影し、「らくらくボード」の画面で紹介しています\*。大画面には、やはり引きつける力がありますね。子どもを指導する上で、大きさというのは大切なポイントで、小さなものを見せるより格段に集中力が上がると感じています。\*実験台の上にセットしたデジタルカメラと「らくらくボード」をHDMIで接続し、撮影した画像をリアルタイムで画面に表示しています。

**八巻校長:**小さいものを大きく見せることのできる電子黒板は、コロナ対策としても有効です。理科では皆で集まって観察することがよくありますが、飛沫感染などの観点で、これは好ましくありません。現物を皆で回して順番に触れてみたり、といったことも自粛しなければなりません、その代わりになるツールとして役に立って来ています。



## 「先生が作ってくれた教材」だから、学びが「自分事」になる

ほかに、電子黒板ならではの効果を実感されているシーンがあったら教えてください。

**辻先生:**写真の訴求力も強いですが、動画にはさらに子どもたちを惹きつける力があると感じます。「らくらくボード」なら、ストップモーションにして動画上に書き込みすることもできます。実験などの手順を説明する時には、集まって私の手元を見てもらうより、電子黒板の大画面で見てもらったほうが理解が早いですね。また、自作の動画も使っています。新しい実験道具を授業で使う時などは、あらかじめ録画した使い方を「らくらくボード」の大きな画面でループ再生しておきます。



電子黒板が先生のかわりに説明してくれるわけですね。

**辻先生:**従来は、わからないという児童がいたら私が何度も説明していました。しかし今では、わからなければまず動画をよく見るという流れができています。ほとんどの疑問はこれで解決するようで、基礎的な部分で私が説明を繰り返す必要はほぼなくなりました。自分の分身がアシスタントとして動画で説明してくれている感覚です。しかも児童たちは、「先生、まるでYouTuberみたい」と喜んでくれるんですよ。

**八巻校長:**教材DVDなどを視聴するだけでは、学びが「自分事」として響かないのではと感じています。しかし、辻先生がお話している動画、自分たちが書いたプリントとなると、それが急に他人事ではなくなります。当校の教育方針の1つに「学びを自分事として捉える」という項目もあるのですが、電子黒板はまさにそれを実現するためにサポートしてくれるツールだと感じます。



**荒井指導主事:**子どもたちが真剣に話し合い、時間ギリギリまで手を上げて、先生も一緒になって授業を作り上げていく——、そんな授業作りにも「らくらくボード」も貢献してくれました。電子黒板については来年度以降、初声小学校をはじめ市内各小学校へ順次配備を進めていく予定です。さらに活用を広げていってもらうこと、大いに期待しています。

## 取材にご協力いただいた先生

三浦市立  
初声小学校

八巻 貞司 校長

三浦市立  
初声小学校

辻 功 先生

三浦市教育委員会  
学校教育課

荒井 俊彦 指導主事



## CLIENT DATA

導入学校 / 三浦市立初声小学校  
所在地 / 神奈川県三浦市  
設立 / 明治22年